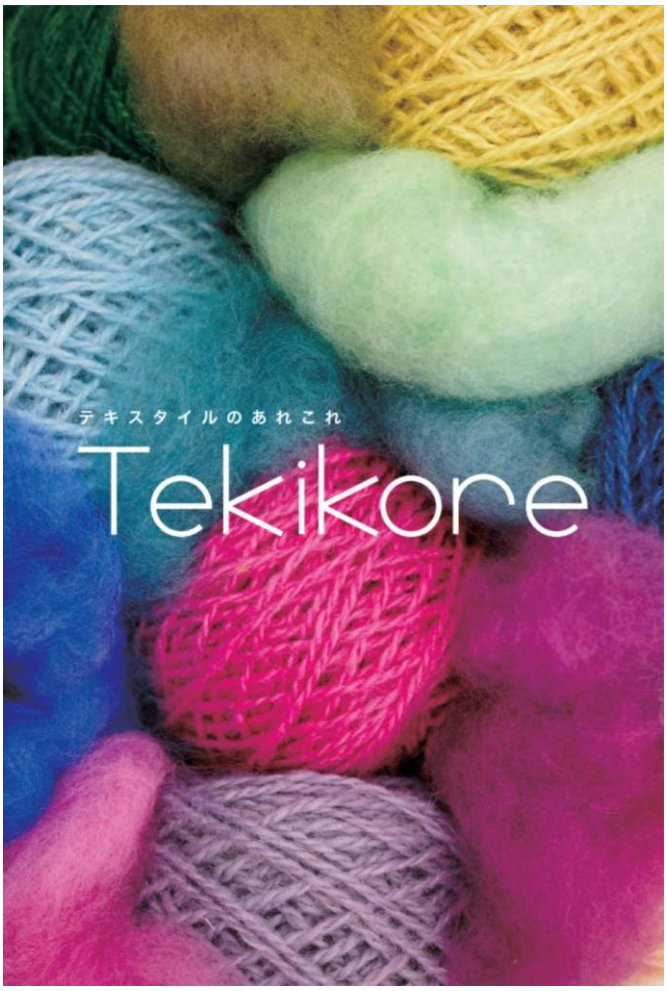
Dream Plan

令和元年度ドリームプラン

テキスタイルによる
卒業制作の展示企画「Tekikore」の開催

家政学部造形表現学科４年　石沢優香・大井つぐみ・清水茉澄・菅谷菜月・
高崎裕奈・田中未歩・富原愛・野原ひなの・
齋藤虹泉・島村瑞・髙橋千奈美・深野冬帆・
藤森彩水・星野光李・松澤栞・山﨑夏澄・横山瑞季



実施日　１２月９日～１４日

はじめに

この度、東京家政大学後援会のドリームプラン奨学金をいただき、レンタルスペースを借りてテキスタイルの作品にフォーカスした卒業制作の展示を実施しました。いくつかの項目に分けて活動を振り返ります。

企画

ドリームプランに応募したきっかけは、個展やグループ展など外部で展示をする機会を得られなかった学生が多いことに気付いたからです。外部で展示をしたいと思っても、個人で会場を探し、借り、作品を作り、宣伝を行い、搬入・搬出までこなすというのは気力がないと行うことは難しく、加えて、多くの資金が必要となるため簡単には行えないと思います。外部で展示をしたい願いがあっても叶えられなかった人達や今まで勇気が出せなかった人達にもぜひ展示の機会を設けたいと思い、大学生活の集大成とも言える卒業制作を展示する企画を考えました。

展示の統一感という観点から見て、テキスタイル分野で卒業制作を作ろうと考えているメンバーに声を掛け、１７名で展示を行うことが決定しました。グループ展のテーマは「テキスタイルあれこれ」、略して「Tekikore」としました。本展示では、布などの平面だけではなく、立体や空間での表現、また、ソファーなどの家具にも展開していくなど幅広く、テキスタイルの分野の中でも多種多様な素材や技法、表現があることを表したテーマとなっています。

約１週間展示を行うのは、「１週間ほどの会期があれば様々な業種の方や予定がある程度決まった方でも来る時間が取れる」と学科の先生にご意見をいただいたからです。予算を考えつつ出来るだけ長く会期を取れるように調整しました。

作品制作

卒業制作であるため、基本的には各自で制作を進めましたが、どれも大きな作品であったり、複雑な作品であったりするため広いスペースや人手を必要とする場面が多々あります。そういった場面では互いに協力し合い、場所を空けたり手伝ったりしながら制作していきました。

また、できる限り互いの状況を把握することが制作のモチベーション維持に繋がると学科の先生にアドバイスをいただいたこともあり、互いの作業風景を写真に撮ったり、休憩時間に話をしたりするように心掛けました。

作業の様子

展示に関する準備

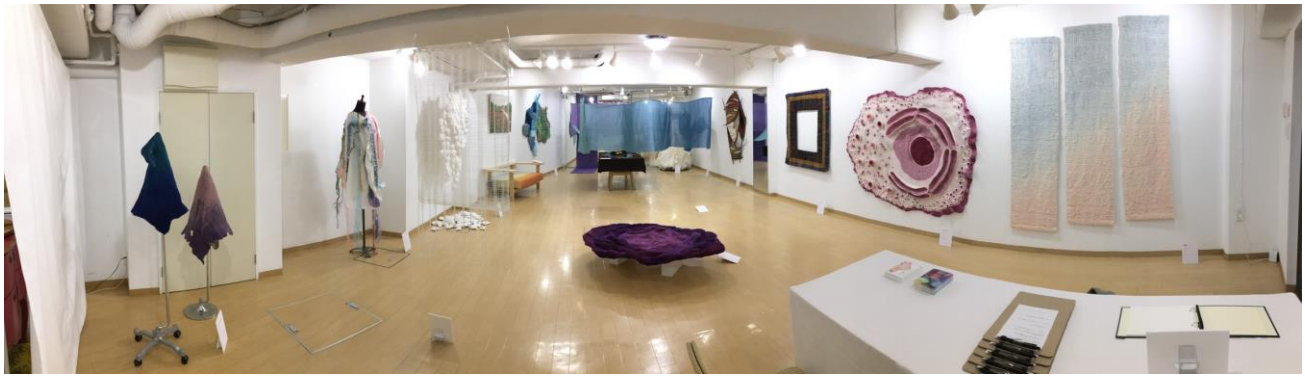
展示をするにあたり必要となってくるものについてアイデア出しを行い、担当するメンバーを決めました。DM・ポスターの作成や、会場の模型を作成しての作品配置調整、備品の用意と管理、会期中の受付シフトなどは最初に考え、計画をし、実施しました。

その後、必要に応じて搬入の際にトラックに積み込む順番など、考えておいた方が良いことを思いついたメンバーや担当可能なメンバーが行い、都度情報を共有するようにしました。担当を決めなかったものについては、仕事が集中してしまったメンバーや全く仕事が無かったメンバーが生まれてしまったため、仕事を割り出して分担を行った方が負担が偏らず良かったと反省しました。

搬入と展示

場所については、１７人の作品が十分に展示できる広さがあり、かつ吊るしの展示がしやすいスペースという基準でレンタルギャラリー・スペースを探しました。今回お借りしたのは原宿駅から徒歩５分ほどのところにあるレンタルスペースさくら原宿竹下口の地下です。

予め展示の配置やトラックの積み下ろしの順番、会場で必要になる備品等の計画をしてあったおかげで大きなトラブルなく、１日でスムーズに搬入・展示をすることが出来ました。その甲斐あって作品の展示の微調節をしっかりとすることも出来ました。



展示室内の写真とパノラマ写真

会期中

事前に受付シフトを計画していたので滞りなく運営することができました。会期中に気がついた点は共有して困ることがないよう心掛けました。

また、タブレット端末を受付のカウンターに置いて、互いに撮り合っていた作業風景をス

照明を消した際の作品の写真

ライドショーとして流すことにしていたのですが、作品の制作について質問があった際の解説のために写真を見せると分かりやすいということで、会期中に作品ごとの画像フォルダを作り、すぐに画像が見せられるように準備を行いました。

照明を使用する作品もあったのですが、来場者の少ない時間帯で要望があれば会場の照明を消して鑑賞が出来るようにするなど、できる限り満足のいくまで作品を鑑賞してもらえるように臨機応変に対応しました。

感想・まとめ

展示を行う経験をしたことがないメンバーがほとんどだったので、経験のあるメンバーの意見や先生方からのアドバイスを受けつつ、インターネットで情報を集めながら模索して今回の展示を開催することができましたが、作品を作りながら、展示を企画して開催することの大変さを強く感じました。加えて、今回は卒業制作という規模としても作品への思いとしてもとても大きな作品を、協力してグループで展示できたことは素晴らしい経験だったと思います。

また、それぞれに全力を尽くし試行錯誤しながら制作した作品をじっくりと鑑賞してもらい、感想をもらえることに大変な喜びを感じました。来場者にお願いしたアンケートには、８４名もの方にお答えいただき、作品についての感想・コメントや２月に行われる造形表現学科卒業制作展に向けての応援や期待のメッセージをいただくことができました。それらのメッセージは、参加したメンバーがいつでも見ることができるようにファイリングしたものを共有しています。

今回展示して気が付いたこと、いただいたメッセージやアドバイス、ご意見を踏まえて、皆それぞれに更なる改良を重ね、作品の制作を続けています。

おわりに

　ドリームプラン奨学金をいただいてこの展示を行ったことで、自らの作品を見つめ返し、また、他の作品から刺激を受ける良い機会となったと共に、こうして展示を成し遂げられたことは私たちにとって今後様々な活動していく上での力となり自信となりました。卒業した先も、今回感じた喜びを忘れず、今回得た学びを活かして活動していきたいと思います。

本当にありがとうございました。